

2019年度

事業報告

2019年4月1日から

2020年3月31日まで

公益財団法人 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会

はじめに

WCRP 日本委員会は、混迷する世界において、宗教者として平和の実現を目指し、国内外で人々が抱える諸問題に積極的に取り組むため、諸宗教間のネットワークや各界との協力を通じて、2019年度の事業を実施した。

『「他者と共に生きる歓び」のための祈りと行動』の総合テーマのもと、(1) ネットワーク化、(2) 啓発・提言活動、(3) 平和教育・倫理教育、(4) 人道的貢献を行動指針として、事業を展開してきた。とりわけ、5つの特別事業部門（タスクフォース）、①核兵器禁止条約批准、②気候変動、③難民問題、④和解の教育、⑤西日本豪雨復興、⑥令和元年台風災害復興支援を活発に実施し、「新春学習会」などの学習会を通して、平和に関する諸課題についての学びを深め、そのメッセージを幅広く発信した。

I. 事業部門

A. 諸宗教間の対話と協力を通じた平和のための活動と研究を推進する事業

(公1)

事業の趣旨（目的）

諸宗教間の対話により相互理解を深めるとともに、諸宗教間による協力・協働を基盤として、宗教者のみならず、不特定多数の人々に対して、平和を脅かす諸課題の解決のための活動を普及し、宗教の叡智に基づく平和構築のための啓発・提言活動を行うことにより、異文化間または国際的な相互理解の促進、世界平和の確立、より良い社会の形成、豊かな人間性の涵養並びに文化の向上に寄与し、ひいては世界の平和のために貢献する。

1. 諸宗教間対話・ネットワークを通じた宗教協力

(1) 諸宗教間対話・ネットワーク

全事業を通じて、仏教、神道、キリスト教、教派神道、新宗教団体、イスラーム、ヒンズー等をはじめとする宗教・宗派間の対話を促進し、平和のために協力するネットワークを構築した。

2019年度の事業は以下の通り。

① 第10回WCRP世界大会への参画

期 日：2019年8月20日～23日

開催地：ドイツ・リンダウ

概 要：

第10回WCRP世界大会が、8月20日から23日までドイツ・リンダウにある国際会議場「インゼルハレ」で開催された。大会テーマは『慈しみの実践：共通の未来のために——つながりあういのち（Caring for Our Common Future—Advancing Shared Well-being）』。今回はドイツ外務省、バイエルン州教育省の協力によって行われ、125カ国から900人の宗教者をはじめ1,000人以上が参集した。日本委員会からは正式代表5人を含む40人が参加した。

期間中、全体会議、分科会、平和行進、女性に焦点を当てた特別セッション、宗教別・地域別会合などがもたれ、宗教者らが紛争解決や気候変動への取り組みについて議論を交わした。さらに今大会には、紛争や対立を抱えるミャンマー、バングラデシュ、北朝鮮、中央アフリカなどから宗教指導者が参加し、非公開のトラックII平和協議を通してロヒンギャ問題や朝鮮半島非核化などが話し合われた。最終日には、諸宗教の共通の行動を呼びかけるリンダウ宣言を全会一致で採択した。内容は、機関誌「WCRP」9月号、10月号に掲載。

② 平和に向けた諸宗教と国連／諸団体のパートナーシップ会合

期 日：2020年1月30日

場 所：フォレストテラス明治神宮（東京・渋谷区）

概要：

会合には、日本委員会と関わりの深い国連諸機関、NGO、FBO（宗教を基盤としたNGO等の団体）と日本委員会役員ら47人が参加した。同会合は、WCRP国際委員会次期事務総長のアッザ・カラム博士がこれまで、国連「宗教と開発のための組織間調整タスクフォース」のコーディネーターとして、世界の宗教・諸宗教機関を代表する600以上の組織と協働し、平和構築に向けた対話やプロジェクト開発を担当してきたことから、世界の平和社会の実現に向け、関係諸団体とのより有益なパートナーシップの構築について話し合うために開催された。会合の中でカラム教授は、国連職員として諸宗教組織と協力関係を築いてきた経験を踏まえ、「良いパートナーシップは相手を知るところから始まる」と語り、宗教組織への理解を求めた。また、世界人口の8割以上が信仰を持ち、宗教は草の根から政治レベルにまで大きな影響を与えていると説明。平和の実現に向け、「(国連機関と宗教組織の) お互いが持つ能力をより効果的に発揮するため、さらなる友好関係を構築していくことが重要」と述べた。この後、参加者を代表して国連開発計画(UNDP)駐日事務所の近藤哲生駐日代表、国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所のダーク・ヘベカー駐日代表、公益財団法人日本ユニセフ協会の早水研専務理事などが、宗教への理解の促進とより実践的なパートナーシップの連携が必要であると期待を寄せた。内容は、機関誌「WCRP」2020年3月号に掲載。

③ アジア宗教者平和会議 (ACRP/RfP Asia) 執行委員会への参画

期 日：2019年4月11日～12日

開催地：大阪・立正佼成会大阪普門館

概要：

アジア19カ国から仏教、キリスト教、イスラーム、ヒンドゥー、道教、神道の宗教指導者ら、約100名(執行委員・オブザーバー含む)が参加した。WCRP日本委員会からは、庭野日鑛会長(立正佼成会会長)や植松誠理事長(日本聖公会首座主教)、黒住宗道理事(黒住教教主)、川端健之理事(立正佼成会理事長)、國富敬二事務局長が、ACRP/RfP Asia執行委員として出席した。今回の執行委員会では、2020年10月に東京で開催される第9回大会の実施概要、定款の改正、そして行動指向型の組織へと変容していくために、具体的なプロジェクトを明確化することが議論された。内容は、機関誌「WCRP」5月号に掲載。

④ 韓国宗教平和国際事業団 (IPCR) 国際セミナー

日本・韓国の宗教者・学者が集まり『東北アジア平和共同体構築のための課題』をテーマとするセミナーが開催された。概要は、下記「3. セミナー・スタディーツアー」の通り。

⑤ G20 諸宗教フォーラムへの参画

期 日：2019年6月11日～12日

場 所：京都

概要：

6月末に大阪市で開かれるG20サミット(主要20カ国・地域首脳会議)を前に、宗教者の視点から世界の諸課題を議論し、各国代表に提言する「G20 諸宗教フォー

ラム 2019」(主催・同フォーラム 2019 京都)が6月11、12の両日、京都市にある京都府庁日本館の旧議場などで開催された。国内外の宗教者や研究者、NPO 関係者など約120人が参加した。

⑥ 遺骨奉還事業への参画

2018年10月北海道で開催された第2回日韓宗教指導者交流におけるシンポジウムで基調講演を務められた一乗寺(北海道深川市)の殿平善彦師より遺骨奉還事業についての報告があった。そのシンポジウムにおける出会いを受け、過酷な労働の中で犠牲となった朝鮮半島出身者らの位牌が安置され、また日韓の青年が歴史を学ぶための場であった北海道幌加内町朱鞠内にある「笹の墓標展示館」(旧光顕寺本堂)の再建費用の財的支援を行った。

⑦ 三陸海の盆

8月11日に岩手県田野畑村で開催された第9回三陸海の盆を支援した。三陸海の盆は「心の復興」を目指し、三陸各地で活動する郷土芸能団体が一堂に会して犠牲者の御霊を追悼、三陸沿岸の早期復興を祈願するとともに、郷土芸能の継承を目的として2011年から開催されている。内容は、機関誌「WCRP」9月号に掲載。

⑧ ふくしま・コミュニティ・フォーラム

期 日：2019年11月20日～21日

場 所：AOZ、いわき産業創造館(福島県)

概 要：

10月12日に甲信、関東、東日本等の各地に甚大な災害をもたらした台風19号は、福島県全域にも多大な被害をもたらした。そのため、福島が抱える課題を共有化し、今後の復興や防災、未来へとつながる情報交換の場として「ふくしま・コミュニティ・フォーラム」を一般財団法人・ふくしま百年基金と共催で開催した。会場は、地域性が反映されるように2カ所とし、11月20日に福島市内を対象とした「福島会場(AOZ小活動室)」、21日にいわき市内を対象とした「いわき会場(いわき産業創造館会議室)」で実施した。福島会場には、10団体14人いわき会場では、11団体21人が参加し、互いの活動を紹介し合い、日ごろの運営上の課題を相談すると共に、台風19号による各地域での被災状況や支援について話し合い、関係を深めた。内容は、機関誌「WCRP」12月号に掲載。

(2) 西日本豪雨復興事業

2018年6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心に台風7号と梅雨前線の影響を受けた集中豪雨により、14府県で死者・行方不明者が232人にのぼり、多くの家屋が全半壊するなど、西日本の広範囲において甚大な被害をもたらされた。豪雨被害を受けて、2018年9月に西日本豪雨復興タスクフォースを立ち上げ、以下の支援事業に取り組み、2019年7月に事業を終了した。

① 障がい者施設でのボランティア

愛媛県西予市野村地区は、豪雨により約20%の家屋が河川の氾濫で甚大な被害を受けた。同地区を視察調査した結果、35人の障がい者が農業就労する「レインボーアグリ」

(就労継続支援 B 型施設) にて、利用者への心のケアの提供 (傾聴活動) や、農作業の手伝いを行うボランティア派遣を行った。2018 年 12 月からは農作物の生育に合わせて施設が週末休みとなり、ボランティア派遣は月 1 回のペースで 2019 年 6 月まで活動を実施した。

② 傾聴ボランティア

2018 年 12 月から、宗教者ならではの活動として被災者の心に寄り添う傾聴カフェを実施した。曹洞宗四国地区青年ボランティア会や地元の社会福祉協議会と共に、野村仮設 (74 戸) と赤間仮設 (24 戸) の集会場にて、被災者にコーヒーなどの飲み物とお菓子を準備・提供しながら傾聴ボランティアを行い、2019 年 6 月に終了した。

③ 追悼と鎮魂ならびに復興合同祈願祭

期 日：2019 年 7 月 10 日

場 所：三嶋神社 (愛媛県西予市)

概 要：

発災から 1 年を迎えた 7 月 10 日、愛媛県西予市野村町野村にて WCRP 日本委員会と新日本宗教団体連合会の共催で祈願祭を実施した。WCRP 日本委員会・新宗連役員、関係者、地元宗教者・地元住民ら約 90 人が参加。会場となった三嶋神社 (和氣利雄宮司) は野村ダムの大量放流によって傍を流れる肱川の氾濫によって甚大な被害を受けたが、住民らの努力で再建された新たな拝殿で行われた。なお、祈願祭に先立ち、参列者は被災箇所を視察した。内容は、機関誌「WCRP」8 月号に掲載。

④ 西日本豪雨復興タスクフォースの会合を 2 回開催し、事業についての協議を行った。

(2) 令和元年台風復興支援事業

9 月 8 日から 9 日にかけて、暴風雨域をともなって東京湾を北上した台風 15 号は南関東を中心に多大なダメージを残した。9 月 26 日の第 29 回理事会にて「台風 15 号災害復興支援タスクフォース」を新たに設置し、その後、WCRP は、新日本宗教青年会連盟 (新宗連青年会) と協力し、千葉県安房郡鋸南町と同県館山市へボランティアを 12 回に渡り派遣した。そのような状況の中、10 月には台風 19 号が上陸し東日本全域に甚大な被害をもたらされた。WCRP は千葉県と台風 19 号で最も多くの死者を出した福島県で調査を行った。千葉県鋸南町は 10 月 20 日、館山市・南房総市は同月 27 日にボランティアセンターが閉鎖となり、災害復興支援の軸足を WCRP が東日本大震災復興で縁が深い福島県へ移行することとなった。WCRP 日本委員会は熊本大震災や西日本豪雨の際、生活弱者 (高齢者、子ども、障がい者) に焦点を当て支援した関係から、郡山市障がい者基幹相談支援センターから「より丁寧な対応と支援が必要」との情報を得て、タスクフォースは福島の障がい者施設を中心に支援することとなった。内容は、機関誌「WCRP」2019 年 11 月号に掲載。

① 障がい者施設でのボランティア

WCRP 日本委員会は台風 19 号上陸から 1 週間後、きょうされん (全国共同作業所連絡会) から情報を得て事務局員 3 名が福島県に入り、新日本宗教団体連合会青年会と合同の支援活動 (VOWS) のための調査を行った。調査の段階でも郡山市のボランテ

ィアセンターで4回の活動を実施した。その後、郡山市社協・障がい者基幹相談支援センターから県内の被害状況を伺い、数カ所の施設を視察した結果、郡山市近郊の須賀川市にある社会福祉法人福音会／就労移行支援・就労継続支援 B 型施設ワークセンター麦の支援が決まった。

ワークセンター麦は利用者数約 50 人、台風 19 号の被災により車輛 14 台が廃車となり、事業所内の作業機がすべて水没した団体である。そこでの活動内容は、工業備品の研磨・整理作業と鏡餅に乗せるプラスチックミカンの作成や梱包を施設利用者と共に行うことである。毛糸の人形作りや「うどんの移動販売」の復旧に向けた製麺所の修復作業も行った。2019 年 12 月に 4 回、2020 年 1 月から 2 月にかけて月 2 回ボランティアを派遣した。内容は、機関誌「WCRP」2020 年 1 月号に掲載。

② 障がい者施設への備品支援

ワークセンター麦は台風 19 号によって床上 1 メートルの浸水被害にあっており、資材棟（平屋約 300 m²）を新たに建設することとなった。備品類が水没しており、その資材等で使用する厨房・食堂備品、部品棚、事務所のキャビネット購入支援を行った。

2. 講座

平和を脅かす諸課題について、宗教団体のみならず、不特定多数の人々がより深い理解を得るため、以下の講座を開催した。機関誌やホームページを通じて広報するとともに、その内容を掲載した。

(1) 平和大学講座

2020 年 3 月 12 日に、賀茂御祖神社（京都・左京区）にて『つながりあう「いのち」とその未来のために——女性宗教者に期待するもの——』をテーマに開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2019 年度は中止となった。

(2) 新春学習会

期 日：2020 年 1 月 28 日

場 所：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

概 要：

『WCRP 国際委員会次期事務総長のアッザ・カラム博士との対話～第 10 回世界大会と新たな宗教者の役割～』をテーマに開催し、WCRP 日本委員会関係者、加盟教団信者、市民ら約 300 人が参加した。カラム博士は、すべての宗教は愛や慈悲、慈しみといった共通の価値観を持ち、その精神によって宗教、信仰、思想、良心の自由が保証されなくてはならない、さらに宗教、信仰、思想、良心の自由を実現していくことが WCRP/RfP の使命である、と述べた。また、参加者との質疑応答が行われ、市民社会における諸課題への宗教者への参画のあり方や、諸宗教間の連携、協力、対話などについて意見が交わされた。内容は、機関誌「WCRP」2020 年 3 月号に掲載。

3. セミナー・スタディーツアー

宗教団体の指導者及び実務担当者をはじめ会員・関係者や関心をもつ人々が、平和構築に寄与するため、様々な宗教や異なる文化に対する理解や、国際社会の中で直面する諸問題への理解を深めることを目的として、以下のセミナーやスタディーツアーを実施した。

(1) 韓国宗教平和国際事業団 (IPCR) 国際セミナー

期 日：2019年10月25日～26日

場 所：立正佼成会横浜普門館（神奈川県横浜市）

概 要：

2009年から日本・韓国・中国の宗教者・学者が集まり「東北アジアにおける平和共同体構築のための共通基盤を求めて」を基本テーマに行われているセミナーで、2019年度は『東北アジア平和共同体構築のための課題』をテーマに開催。今回、中国宗教者和平委員会 (CCRP) は、諸般の事情により不参加となったが、日本・韓国の宗教者、学者らなど約65人が参加した。内容は、機関誌「WCRP」11月号に掲載。

4. 平和のための啓発・提言活動

(1) 核兵器廃絶・軍縮に向けた取り組み

① 『パグウォッシュ会議と「非戦」の思想』連続講座シリーズ

日本パグウォッシュ会議と明治学院大学国際平和研究所 (PRIME) が開催する全4回の連続講座に第3回、第4回、特別編に共催した。核兵器禁止条約への日本の対応などについて、核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) の川崎哲運営委員や学者、NGO関係者らが講演。「戦争の廃止」というテーマに着目し、日本の科学者や市民が取り組むべき課題や「戦争によらない紛争解決の道」「非戦」をめぐる思想と運動を活性化させるために活発な議論を行った。

・第3回

期日：2019年4月27日 会場：明治学院大学（東京都）

テーマ：平和憲法の世界的・現代的意義

・特別編

期日：2019年9月29日 会場：音羽山清水寺経堂（京都府）

テーマ：「核なき世界」と「非戦」の理想

・第4回

期日：2020年1月26日 会場：明治学院大学（東京都）

テーマ：「非戦」思想の人類史的展望

② 2019年NPT（核不拡散条約）準備会合への参画

期 日：2019年4月29日～5月10日

開催地：国連本部（米国・ニューヨーク）

概 要：

NPT準備会合にWCRP日本委員会から核兵器禁止条約批准タスクフォースメンバーの神谷昌道師と篠原祥哲総務部長が参加した。このNPT準備会合に向けて、主に2つの取り組みを行った。一つは、核軍縮不拡散議員連盟 (PNND) 日本と共同提言文「核兵器廃絶に向けた共同提言文」の発表であり、もう一つは「ヒバクシャ国際署名」を推進する被爆者の日本原水爆被害者団体協議会（被団協）の木戸季市事務局長、濱住治郎事務次長の国連派遣の渡航費支援である。

2019年4月25日、衆議院議員会館で核軍縮議員連盟(PNND)日本と共同提言文「核兵器廃絶に向けた共同提言文」を発表した。PNND日本から近藤昭一副会長、鈴木馨祐事務局長、WCRP日本委員会から核兵器禁止条約批准タスクフォースの中村憲一郎責任者、國富敬二事務局長が出席した。この提言文は、5月1日国連本部で開催されたPNND主催サイドイベント「核リスク削減と核軍縮のための議員アクション」において神谷昌道氏より発表された。また「ヒバクシャ国際署名」との共催で、5月3日に国連本部においてサイドイベント「ヒバクシャ・アピール」を開き、被爆者の核兵器廃絶への願いを直接、準備会合の参加者に訴えた。内容は、機関誌「WCRP」6月号に掲載。

③ 広島・長崎平和関連行事への参画

【広島】

2019年8月6日早朝、広島戦災供養会主催、広島県宗教連盟の奉仕による「原爆死没者慰霊行事」に、WCRP日本委員会を代表して、核兵器禁止条約批准タスクフォースメンバーの三宅善信理事(金光教春日丘教会長)、黒住昭子女性部会委員(黒住教婦人会会長)、また三鍋裕監事(日本聖公会主教)が参列した。その後、広島市主催による「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に参列した。

【長崎】

2019年8月7日、長崎県宗教者懇話会の主催による平和交流会が、8日には第47回原爆殉難者慰霊祭が行われ、WCRP日本委員会から核兵器禁止条約批准タスクフォース責任者の中村憲一郎理事(立正佼成会常務理事)と同タスクフォースメンバーの河田尚子女性部会事務局長(アル・アマーナ代表)が参加した。また、8月9日、原爆落下中心地で行われた長崎市主催の「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参列した。

④ 「2020 Vision」キャンペーン

2020年までに核兵器廃絶を目指すために、平和首長会議が推進している同キャンペーンに対して、資金的な支援を実施した。

⑤ 「軍縮タイムズ」発行支援

国連チャーチセンターに事務所があるNGO軍縮委員会が発行する「軍縮タイムズ」に対して、資金的な支援を実施した。1998年から毎年支援を行っている。

⑥ 核兵器禁止条約批准タスクフォースの会合を4回開催し、事業についての協議を行った。

(2) 気候変動に向けた取り組み

① WCRPいのちの森づくりプロジェクト

第8回ACRP大会(韓国・仁川)において、「一人が一本の木を植える」ことが提唱されたことを受け、地球温暖化対策の一環として、同プロジェクトを始動した。埼玉県所沢市にある約1万平方メートルの土地に、埼玉県庁、所沢市、地元の住民による「堀口天満天神社周辺緑地を守る会」の協力を得て、植樹活動を実施した。宗教者の実践活動であり、また青少年への環境教育の場とすることを目的としている。

2019年4月から2020年2月まで、月に2回程度、計16回、竹の処理など植樹のための準備が行われ、ボランティアが活動に参画した。

また、森づくり整備にとって重要となる竹の駆除と青少年育成を兼ねて「タケノコ掘りまつり」を4月6日、21日の両日に渡り開催した。参加総数は6日が73人、21日が72人であった。参加者は2日間を通じて、約300本のタケノコ掘りを体験し、森への愛着を持ち、自然の大切さを感じた。内容は、機関誌「WCRP」5月号に掲載。

② 第4期ミャンマー・プロジェクト

WCRP日本委員会、WCRP国際委員会、ミャンマー委員会の合同事業として、国際的な課題である気候変動への取り組みや諸宗教間の信頼醸成を目的とした「第5期ミャンマー・プロジェクト」を実施した。ミャンマー委員会の女性ネットワークと青年ネットワークがラカイン州やパテインで気候変動に関してのワークショップを行い、環境問題に対する啓発を行った。なお、2020年3月に現地視察を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のため、2019年度は中止とした。

③ 気候変動学習会

期 日：2019年11月22日

場 所：普門メディアセンター（東京都杉並区）

概 要：

『環境省における地域循環共生圏について』をテーマに学習会を開催し、WCRP日本委員会関係者ら約40人が参加。環境省総合政策統括官の中井徳太郎氏が講演した。中井氏は、地球温暖化や異常気象の大きな原因と考えられているCO₂を減らしていく「脱炭素の世界的な潮流」について解説した。また国連持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けて、「地域循環共生圏」を機能させることが大切であると強調した。参加者は日本政府環境省の取り組みを知ることで、地球温暖化やSDGsについての学びを深めた。内容は、機関誌「WCRP」12月号に掲載。

④ 感じる地球ワークショップ

小型デジタル地球儀「感じる地球」を通して、青少年への環境教育、啓発活動を行った。雲の動きや世界の気温の変化、地震や津波の様子を可視化して学ぶことで、地球に国境はなく、環境問題は地球上にいるすべての人が取り組まなければならない問題であると学んだ。

開催日、場所については以下の通り。

| | |
|-----------|--------------------|
| 6月28日、29日 | 崇仁新町（京都府） |
| 7月13日 | イノチムスブ家（兵庫県丹波篠山） |
| 7月28日 | 立正佼成会杉並教会（東京都） |
| 10月19日 | さいたま市立辻南小学校（埼玉県） |
| 10月22日 | 中山身語正宗慈明山祥徳寺（鹿児島県） |
| 11月10日 | 立正佼成会大田教会（東京都） |

⑤ 気候変動への非常事態宣言

環境や気候変動の懸念は、従来から指摘されていたが、今や深刻な環境破壊や極端な気象が現実のものとなっている。環境と気候の非常事態は世界的な問題として直面してお

り、問題解決のための政治的な取り組みの遅れの懸念から、世界の青少年が一斉に気候ストライキを行ったほか、世界の 80 余りの大学も気候非常事態宣言を発表し、研究や教育に反映させると誓約をしている。第 10 回 WCRP 世界大会では、『慈しみの実践：共通の未来のために』をテーマとして、気候変動に対する宗教コミュニティの緊急行動について討議した。国内の諸団体に先駆けて今後の日本における「気候危機」への世論喚起の活動につなげるため「気候変動への非常事態宣言」を採択した。内容は、機関誌「WCRP」2020 年 2 月号に掲載。

⑥ 気候変動タスクフォースの会合を 4 回開催し、事業についての協議を行った。

(3) 「難民問題」への取り組み

① シリア難民留学生の受け入れ

2017 年より、認定 NPO 法人難民支援協会と共にシリア難民を日本語学校の留学生として受け入れを実施している。2019 年度も新たにトルコに避難しているシリア難民に留学希望者を募り、トルコ・イスタンブールとシリア国境近くのガジアンテップにて 2020 年 3 月来日の留学希望者の面談を実施した。留学希望者の中から 7 人が選出され、2020 年 3 月に 6 人が来日し学んでいる。

② シリア難民留学生への生活支援金

2017 年より日本で受け入れているシリア難民留学生の生活の負担を軽減し、勉強により集中できる環境を支援するために、留学生へ生活支援金を支給した。支給にあたっては、留学生本人による応募の後、面接を経て支給を決定した。2019 年度は前年度来日した 3 人の留学生に支援を行った。支援金が支給された留学生からは、その後報告書が提出された。

③ Japan Forum for UNHCR and NGOs への参画

国連 UNHCR や難民問題について活動する NGOs と 2 ヶ月に 1 回程度、情報交換のため、会合に参加した。

④ 難民問題タスクフォース会合を 4 回開催し、事業に関する協議を行った。

(4) 「和解のための教育」への取り組み

① 平和と和解のためのファシリテーター養成講座修了生によるワークショップ

第 1 期セミナー修了生のファシリテーターとしての更なるスキルアップを図ることを目的に、フォローアップの機会を提供した。

・ 6 月 19 日、7 月 10 日には清泉女子大学の松井ケティ教授のゼミの中で、セミナー修了生 3 名が同大学生を対象にワークショップを企画・実施した。内容は、機関誌「WCRP」8 月号に掲載。

- 6 月 19 日 テーマ：『私のいきづらさ』
ファシリテーター：石田晃子、岩田友香子
- 7 月 10 日 テーマ：『私のものの見方～偏見や差別観に気付く～』

ファシリテーター：渡邊真希

- ・9月5日～7日、高野山（和歌山県）で開催された青年部会・サマーキャンプにセミナー修了生2名（丸岡利江、渡邊修宏）がファシリテーターとして参加。自己紹介や教団紹介のファシリテーション等を行った。サマーキャンプは和やかな雰囲気になり、参加者同士の絆が深まると共に、より充実したものになった。

② WCRP・NARPI Japan セミナー

第1期「平和と和解のためのファシリテーター養成セミナー」修了生のファシリテーターとしてのスキルアップと、第2期セミナーへの関心を高めるために、2020年2月23日～25日、NARPI（東北アジア平和構築インスティテュート）と共催し、2泊3日のセミナーを開催する予定であった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため2019年度は中止となった。

③ 和解の教育タスクフォース会合を5回開催し、事業に関する協議を行った。

5. 平和のための調査・研究

当団体に専門の研究機関として「平和研究所」を設け、平和に資する調査・研究を継続している。2019年度は、以下に概要にある通り8回の研究会を開催した。

また、研究会の内容は、機関誌「WCRP」に掲載し、広く情報提供すると共に、書籍を毎年約500部発行し、宗教関係者・大学・研究所・図書館並びにマスコミ関係者に約400部を無料で配布している。報告書に関する詳細は、以下の「8. 広報活動」にある通り。

(1) 研究会

① 第1回研究会

期 日：2019年4月16日

場 所：普門メディアセンター（東京都杉並区）

発表者：山崎龍明（平和研究所所長、武蔵野大学名誉教授）

テーマ：『「慈悲」と慈悲心—日本仏教史にみる慈悲心の実践者—』

② 第2回研究会

期 日：2019年5月21日

場 所：普門メディアセンター（東京都杉並区）

発表者：ホアン・マシア（平和研究所所員、イエズス会司祭）

テーマ：『思想家と詩人の信仰—生の奥義への問いと聖なるものの沈黙—ウナムーノにおける哲学と霊性』

③ 第3回研究会

期 日：2019年6月18日

場 所：普門メディアセンター（東京都杉並区）

発表者：竹村牧男（平和研究所所員、東洋大学学長）

テーマ：「空海の人間観に学ぶ」

④ 第4回研究会

期 日：2019年7月16日

場 所：普門メディアセンター（東京都杉並区）

発表者：松井ケティ（平和研究所所員、清泉女子大学教授）

テーマ：「政治と宗教」

⑤ 第5回研究会

期 日：2019年9月24日

場 所：普門メディアセンター（東京都杉並区）

発表者：齋藤忠夫（平和研究所所員、東北大学名誉教授）

テーマ：「国連SDGsの環境問題とその解決にむけて」

⑥ 第6回研究会

期 日：2019年10月29日

場 所：普門メディアセンター（東京都杉並区）

発表者：金子昭（平和研究所所員、天理大学おやさと研究所教授）

テーマ：「台湾の民主化運動と宗教」

⑦ 第7回研究会

期 日：2019年11月19日

場 所：普門メディアセンター（東京都杉並区）

発表者：森伸生（平和研究所所員、拓殖大学イスラーム研究所所長）

テーマ：「日本イスラーム史初期の日本人ムスリム・田中逸平のイスラーム信仰に見る神道との同質性」

⑧ 第8回研究会

期 日：2020年2月25日

場 所：普門メディアセンター（東京都杉並区）

発表者：中見真理（清泉女子大学名誉教授）

テーマ：『「複合の美」という平和：柳宗悦のヴィジョンと実践』

⑨ 第9回研究会（合宿）

2020年3月30日～31日に静岡県熱海市にて、西原廉太師（平和研究所副所長、立教大学教授）と藪田稔師（平和研究所所員、京都大学名誉教授）の研究会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のため、2019年度は中止となった。

(2) 所員会議を9回行い、研究事業や運営についての協議を行った。

6. 女性による平和活動

女性の特性を活かした平和活動を推進するための「女性部会」を設け、不特定多数の人々を対象として、いのちの尊厳に対する理解を深めるための学習会や、平和教育・倫理教育に資するため、青少年のいのちに関する意識や考え方についての実態を研鑽している。

(1) 第10回 WCRP 世界大会女性事前会議への参画

期 日：2019年8月19日

開催地：ドイツ・リンダウ

概 要：

大会に先立ち、国際会議場「インゼルハレ」にて女性事前会議が行われ、女性宗教者約100人が参加した。日本からは森脇女性部会会長、松井女性部会委員が出席し、和田恵久巳活動委員（立正佼成会国際宗教協力専任部長）がファシリテーターの1人を務めた。ウィリアム・ベンドレイ博士（WCRP/RfP 国際事務総長）が開会挨拶をしたあと、メーレジア・ラビディ・マイザ師（WCRP/RfP 国際名誉会長）が発題。その後、6地域の代表者がそれぞれ事前に行われた女性地域会合の内容を報告した。続いて、グループワークとして世界大会の分科会の5つのテーマに分かれ、各グループで話し合った。女性への教育が重要であると確認され、その普及や充実に向けた取り組みが提言された。内容は、機関誌「WCRP」10月号に掲載。

(2) いのちに関するワークショップ

期 日：2019年4月20日

場 所：清泉女子大学（東京都）

概 要：

松井ケティ委員（清泉女子大学教授）がファシリテーターを務め、女性部会委員、会員、一般市民など約30名が参加した。実際に怒りが沸き起こった時の状況を想定し、どのように怒りの感情と上手に向き合い振る舞えばよいかを、各グループで話し合い、発表し、学び合った。内容は、機関誌「WCRP」6月号に掲載。

(3) いのちに関する学習会

期 日：2019年7月6日

場 所：イエズス会岐部ホール（東京都千代田区）

概 要：

『いのちは誰のもの～胎児のいのちは平和・希望・愛と未来の象徴』をテーマに、学習会を開催し、女性部会委員、会員、一般市民など約60名が参加した。マーチフォーライフ実行委員会代表の池田正昭氏、カトリック神の愛の宣教者会日本代表のシスター純愛から講義を受け、いのちの神秘さ、中絶を避けるための自然な家族計画を積極的に伝えていくことの大切さを学んだ。講演後には、グループ別にて「私たちができること」をテーマに話し合い、いのちの大切さをどう伝えていけばよいか、具体的な行動について話し合った。内容は、機関誌「WCRP」8月号に掲載。

(4) 立正佼成会一乗まつり物産展に出店

期 日：2019年10月6日

場 所：立正佼成会本部（東京都杉並区）

概 要：

東日本大震災後から交流を続けている「本吉絆つながりたい（自閉症、発達障がい者を持つ母親たちの会）」の親子が売り子となり、今年で3回目となる。西日本豪雨で被災した「レインボーアグリ（就労継続支援B型）」と平和と和解のためのファシリテーター養成セミナーで訪問した「ガイアみなまた」から仕入れた有機野菜を販売、

売り上げは「本吉絆つながりたい」に寄付した。内容は、機関誌「WCRP」11月号に掲載。

(5) 宗教別学習会

期 日：2019年12月2日～3日

場 所：生長の家（山梨県北杜市）

概 要：

各宗教についての相互理解を深め、諸宗教と平和に関する諸問題について学ぶための学習会で、女性部会委員、関係者ら18人が参加した。生長の家「森の中のオフィス」（山梨県北杜市）を訪問し、宗教協力の理念や植林や再生可能エネルギーの取り組みを学び、自然と人間が共存するための具体的な実践への意識を高めた。内容は、機関誌「WCRP」12月号に掲載。

(6) 行動する女性宗教者のフェスター災害時に備えてー

2020年2月22日に佼成図書館視聴覚ホール（東京都杉並区）で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、2019年度は中止となった。

(7) 女性部会委員会を5回開催し、事業や運営についての協議を行った。

7. 青年による平和活動

青年の特性を活かした平和活動を推進するための「青年部会」を設け、宗教伝統や文化をより理解し、相互交流を図るため、サマーキャンプや日本と韓国の青年の交流などのプログラムを実施している。

(1) 第10回WCRP世界大会青年事前会議への参画

期 日：2019年8月19日

開催地：ドイツ・リンダウ

概 要：

8月19日、世界大会に先立ち、6つの地域から宗教青年リーダー約90人が集い、青年事前会議が開催された。日本からは、青年部会の齋藤佑助幹事（立正佼成会習学部青年ネットワークグループ）と太宰府天満宮の加藤大志権禰宜が参加した。最初に、WCRP/RfP国際青年委員のマルセロ・レイテス氏（世界学生キリスト教連盟(WSCF)環境公正グローバルプログラム特任部長）より歓迎挨拶が述べられ、続いて、6地域委員会が開催した準備会合の中で行われた青年による会合について報告。その後、5つの大会サブテーマに分かれてグループワークを行い、天然資源の保護、生産と消費のあり方、正しい情報の共有とエンパワーメントの方法などについて意見を交わした。また、次回大会までの国際青年委員を選出し、本大会へ推薦することとなった。内容は、機関誌「WCRP」10月号に掲載。

(2) 第4回日米青年交流プログラム

期 日：2019年6月21日～23日

場 所：臨済宗建長寺派大本山建長寺（神奈川県鎌倉市）
大悲山佛母寺国際禅道場（千葉県富津市）

概要：

米国・コーネル大学の学生 16 人、WCRP 日本委員会の青年宗教者 8 人が参加した。仏教の座禅や茶道、食事の準備を手伝うなど、仏教寺院の修行生活を体験した。コーネル大学ジェーン・ロー教授は、仏教の生き方そのものが自然と一体となるエコライフを送ることができる」と語り、参加者は環境問題と宗教の関係性について学びを深めた。内容は、機関誌「WCRP」7月号に掲載。

(3) サマーキャンプ 2019

期 日：2019 年 9 月 5 日～7 日

場 所：高野山 (和歌山県)

概要：

『ともに支えあう～世界に開かれた高野で出会う 1200 年の叡智～』をテーマに開催し、9 宗教・宗派、団体から青年宗教者 40 人が参加した。金剛峯寺や奥ノ院など真言宗の聖地参拝、阿字観や宿坊体験など高野山ならではのプログラムやグループワークなどを実施。体験や講義を通して高野山真言宗の学びを深めるとともに、参加者の相互理解を深め、平和構築に向けて宗教協力の大切さを学んだ。内容は、機関誌「WCRP」9月号に掲載。

(4) アジア・ユースキャンプ 2019 への参加

期 日：2019 年 11 月 26 日～30 日

開催地：フィリピン共和国・マニラ

概要：

ACRP と ACRP ソウル平和教育センター、アジア&太平洋諸宗教青年ネットワーク (APIYN) 及び WCRP フィリピン委員会の共催、WCRP 国際委員会の協力のもと、『つながりあういのちへの目覚めと実践：アジア太平洋青年の役割とは』をテーマに開催され、アジア・太平洋地域 21 ヶ国から約 70 人の青年が集った。青年部会からは大西英玄副幹事長 (音羽山清水寺執事補)、西由江事務局長 (立正佼成会習学部青年ネットワークグループ次長)、齋藤佑助幹事 (立正佼成会習学部青年ネットワークグループ) ら 8 人が参加し、アジア青年宗教者同士の交流を深め、平和活動へのコミットを誓った。内容は、機関誌「WCRP」12月号に掲載。

(5) 第 14 回日韓青年交流会

2020 年 2 月 13 日～17 日、韓国・釜山と慶州にて韓国の青年宗教者と世界遺産の仏国寺や国宝である石窟庵での宗教体験やグループディスカッションを通しての交流を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、2019 年度は中止となった。

(6) 公開学習会

2020 年 3 月 1 日に真宗大谷派東本願寺真宗教化センターしんらん交流館 (京都) にて、『国連 SDGs の環境問題と青年による解決にむけて』をテーマに開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、2019 年度は中止となった。

(7) 青年部会幹事会を 4 回実施し、事業や運営に関する協議を行った。

8. 広報活動

当団体の事業等を広く一般に周知し、国内外の宗教状況、諸宗教の対話、国際社会が直面する平和を脅かす諸課題に関する情報などを広く一般に提供するため、以下の広報活動を行った。

(1) マスコミ関係者との情報交換

①プレスリリース

2019年度は、11のプレスリリースを発行し、マスコミ関係者等に送付したほか、ホームページに掲載した。

②記者懇談会

2019年7月26日に東京都新宿区、8月7日に京都市下京区で記者懇談会を開催し、第10回WCRP世界大会の参加について、メディア関係者と意見交換を行った。大会後、9月13日と9月18日に東京と京都にて第10回WCRP世界大会の報告と成果について、メディア関係者と意見交換を行った。

(2) ホームページ

ホームページを通して、事業報告や告知を行った。随時更新するとともに、広く一般に学習会等への参加を呼びかけ、その申し込みの受付を行い、市民からの問い合わせに対応した。また、WCRPの活動がより分かりやすくなるようホームページ改修に着手した。

(3) 出版

①機関誌「WCRP」

毎月2,650部発行し、会員のみならず、宗教関係者・大学・研究機関・図書館・国連やNGO関係者並びにマスコミ関係者等、約1,300部を無料配布した。また、ホームページ等を通じて広報し、申込者に対し、年間購読料1,000円で送付した。

②2018年度活動報告

2019年10月に2018年度活動報告を1,500部発行し、WCRP日本委員会関係者・会員のみならず、NGO/NPO、国連機関、図書館、マスコミ関係者等に約1,000部を無料配布した。また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に無料で提供した。

③平和のための宗教対話と協力12

平和研究所所員による研究報告、平和大学講座特集を掲載。

500部発行し、WCRP日本委員会役員のみならず、図書館、マスコミ関係者等に400部を無料配布した。また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に頒価(800円)で提供した。

II. 法人運営部門

1. 法務に関する業務

(1) 内閣府への報告等及び登記事務他

(2) 法人に関する業務

2. 会議に関する業務

(1) 評議員会

①第18回評議員会

期日：2019年6月25日

場所：浄土真宗本願寺派宗務所（京都府京都市）

②第19回評議員会

期日：2020年1月28日

場所：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

(2) 理事会

①第28回理事会

期日：2019年5月27日

場所：東京グランドホテル・曹洞宗宗務庁（東京都港区）

②第29回理事会

期日：2019年9月26日

場所：日本聖公会京都教区センター（京都府京都市）

③第30回理事会

期日：2020年1月28日

場所：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

④第31回理事会

期日：2020年3月12日

場所：賀茂御祖神社（下鴨神社）（京都府京都市）

(3) その他諸会議の運営及び記録他

①総合企画委員会

5回開催

3. 監査に関する業務

2019年5月24日に実施

4. 財務に関する業務

(1) 資産運用及び管理に関する業務

(2) 経理、会計、記帳計算に関する業務

5. 文書管理に関する業務

各種文書の作成、提出、管理及び保管他

6. 人事及び福利厚生に関する業務

勤怠管理、安全衛生及び福利厚生他

7. 庶務に関する業務

- (1) 什器備品、印刷物、公印等の管理他
- (2) その他どの部門にも属さない事項の処理他

2019 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以 上

2020 年 5 月 22 日

公益財団法人 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会